

テゼからの提言 2018年

尽きることのない喜び

去年、重い病の女性がわたしに告げました、「いのちはすばらしい」と。病によって彼女に残された可能性には限界があります。その彼女を満たす内なる喜びにわたしは深く感動しました。この言葉だけでなく、彼女の顔の美しい表情にも心動かされました。

子どもの喜び、この何とすばらしいことでしょう。最近、無数の悲劇が凝縮されたアフリカの難民キャンプで、その存在がいのちをほとぼらしらせる子どもたちに出会いました。彼らの力は、傷ついた無数の人生を、明るい明日を秘めた託児所へと変容させます。自分たちの存在がどれほどわたしたちに希望を抱かせているか、もしこの子どもたちが知ってくれたら！彼らの生き生きとした喜びは一筋の光です。

この2018年を通して、喜びをテーマに黙想するとき、このような例によって照らされたいのです。喜び、それは、ブラザー・ロジェがテゼ共同体の心としていた三つの真実---喜び、単純素朴、あわれみ---のひとつです。

ブラザーの一人と共に、南スーダンのジュバとラムベク、それからスーダンの首都ハルツームを訪ねました。この二国の現状をさらに知り、現在世界でもっとも苦悩するこの二国の人々と共に祈るためでした。

諸教会を訪問し、教育、人々との連帯、病人や見放されている人々へのケアなどの教会の働きを見ることができました。さらに、故郷から追放された人々のキャンプにも迎えられました。そこには、悲惨な事件によって両親を失った多くの子どもたちが暮らしていました。

特に女性たちのことが印象に残りました。母親たち、しばしばとても若い母親たち、彼女たちが、暴力によってもたらされた苦悩の多くを引き受けているのです。彼女たちの大半は急いで家から避難せねばなりません。それでいながら、彼女たちは毎日の生活で今も仕え続けているのです。彼女たちの勇気と希望は並外れています。

この訪問を通して、わたしたちは、ここ二年間テゼに迎え入れているスーダン難民の青年たちにさらに近づいた気がします。

これに先立って、二人のブラザーと共に、わたしはエジプトを訪問し、コプト正教会の主教によって1999年に創立されたアナフォラ共同体で開催された五日間の青年大会に出席しました。共に祈り、お互いを知り、エジプトの教会の古いそして豊かな伝統を知りました。この大会には、ヨーロッパ、北米、エチオピア、レバノン、アルジェリア、イラクから100名ほどの青年が集い、カイロ、アレキサンドリア、ナイル上流地域から来た100名のコプト教の青年たちに迎え入れられました。

わたしたちは、コプト教会の殉教者の遺産や常に単純素朴な生活へと人々を招くその修道生活のルーツに特に関心を持ちました。そして、コプト正教会の指導者である教皇タワドロス二世の温かい歓迎を受けたのでした。

アフリカから戻ったとき、わたしたちは自問しました。あれほどの痛ましい苦悩を生きる人々---遠くの人々であれ近くの人々であれ---、その声にはほとんど関心をもたない。彼らの叫びはまるで虚空の中で消されてしまっているかのよう。メディアの報道を聞くだけでは十分でない。どのように、わたしたちは日々の生活でこのことに応答してゆけるのだろうか。

以下の2018年の提言は、部分的にこの問いから生まれました。

ブラザー・アロイス (テゼ・コミュニティー院長)



提言 1 喜びの源泉に向かおう

○主は言われる。「わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し、変わることなく慈しみを注ぐ。」

(エレミヤ31:3)

○あなたの主なる神は、あなたとともにおられる。主はあなたのゆえに喜び樂しまれ、愛によってあな

たを新たにし、主は、あなたのゆえに喜び歌われる。(ゼファニヤ3:17)

○主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい！(フィリピ4:4)

なぜ、毎週土曜日の夕に、テゼの聖堂で、全員がそれぞれ手にした小さなキャンドルを灯し、祝祭のときを過ごすのでしょうか。それは、キリストの復活がキリスト者信仰の核心にある光だからです。それは、喜びの神秘的な源泉。それをわたしたちは完全には理解することができません。この源泉から飲むことによって「わたしたちは喜びを得ます。なぜなら、復活が最終的にはすべての答えだと知っているからです。」(オリヴィエ・クレマン：正教会神学者)

この喜びは、大袈裟な感情でもなければ個人的な幸福感でもありません。それは、人生には意味があるのだという澄みきった確信です。

福音のこの喜びは、わたしたちは神から愛されているという確かな信頼から生じます。それは、現代の様々な課題から逃避する高揚感とはまったく異なり、人々の苦悩により敏感に応答します。

- まず、わたしは神につながっているのだという確信のうちに喜ぶのです。一五世紀のキリスト者の祈りは助けになります。「わが主、わが神、わたしをあなたから遠ざけようとするものを除いてください。わが主、わが神、わたしをあなたに近づけようとするものすべてをお与えください。わが主、わが神、わたしをわたし自身の中から引き出し、完全にあなたにゆだねさせてください。」(聖ニコラウス・フリューエ)
- 共に歌い祈るとき、喜びが育まれます。ブラザー・ロジェはこう提言します。「喜びと澄みきった穏やかさに満たされるまでキリストに歌い続けなさい。」人々と共に歌うとき、神との個人的な関係、そして同時に、共に集まった人々との交わりが創られます。祈りの空間、典礼、歌の美しさは復活の徴です。共に祈ることは、東方のキリスト者たちが「地上における天の喜び」と呼ぶものにわたしたちを目覚めさせます。
- 神の愛の映しは、人間の喜びの中に見出されます。それらは多くのものによってわきあがります。詩、音楽、芸術的な遺産、神の創造の美しさ、愛の深さ、友情……。

提言2 もっとも弱いものの叫びを聞こう

○主よ、わたしの祈りを聞いてください。この叫びがあなたに届きますように。苦難がわたしを襲う日に、御顔を隠さないでください。(詩編 102:2-3)

○イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。」(ルカ10:21)

○旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。

(ヘブライ 13:2-3)

なぜこれほど無数の人々が多くの試練----排斥、暴力、飢え、病、自然災害----にあうのか、そしてなぜその声がほとんど聞かれないのでしょうか。

彼らは支援を必要としています、避難所、食料、教育、仕事、医療的ケア。そして同様にもっとも重要なのは友情です。一方的に助けられることは屈辱にもなりえますが、友情は、心に触れます。助けを必要とする人の心にも、連帯を示す人の心にも触れるのです。

叫びを聞くのです。傷ついている人の声を、その目を見つめながら聞きます。苦悩する人に耳を傾け手を触

れるのです。病人、老人、囚われの身にある人、ホームレス、移民……。この個人的な出会いは、他者の尊厳をわたしたちに気づかせ、彼らから何かを受け取ることも可能にします。もっとも悲惨な現状の人でさえ差し出すものを秘めています。

もっとも弱い人たちが、より友愛的な社会の建設のためにかげがえのない仕方でも貢献するのではないのでしょうか。彼らはわたしたち自身の弱さやもろさを明らかにし、そのようにしてわたしたちがより人間的になることを助けます。

- キリスト・イエスが、みずから人間となられたことによって、すべての人と一つになっておられることを忘れてはなりません。彼はすべての人、中でも見捨てられた人の内に現存しておられます。(マタイ 25:40 参照) 人生によって傷ついた人のところに近づくと、わたしたちは貧しい者の中でもっとも貧しいイエスに近づきます。傷ついた人々がイエスとのより深い親密さをわたしたちにもたらします。「他者の試練の内でも分かち合うことを恐れてはなりません。苦悩を恐れてはなりません。なぜなら、しばしば絶望の極みの内にこそ、イエス・キリストとの^{コミュニケーション}の交わりの中で、喜びの充満が与えられるからです。」(テゼの規律)
- 個人的な出会いによって、絶望の中に置かれている人々を支援する道に導かれます。何も見返りを期待せず、それでいて、彼らが分かち合いたいと願うものを受け取ることに注意を留めます。このようにして、心を広くし、より開かれた人間になるのです。
- この大地もまた壊れやすく、人類の乱用によって、地球はさらに深く傷ついています。この大地の叫びに耳を傾ける必要があります。それを大切に世話しなくてはなりません。特に、みずからの生活様式を改めることによって、ますます進行する破壊を食い止める道を模索せねばなりません。

提言 3 苦悩と喜びを分かち合おう

○喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。(ローマ 12:15)

○悲しむ人々は、幸い。その人たちは慰められる。(マタイ 5:4)

○悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。(ネヘミヤ 8:10)

イエスはその復活の後、十字架の釘の痕^{あと}を身に帯びておられました。(ヨハネ 20:24-29 参照) 復活は、十字架の苦悩を包含しているのです。彼に付き従うわたしたちにとって、喜びと苦悩は共存するものです。それらは結合し、人に寄り添う深い同情となります。

内なる喜びが他者との連帯を弱めることはありません。それは連帯を育みます。それは、境界を横切って苦悩に参加することによってわたしたちを駆り立てさせます。内なる喜びは、自分の人生を差し出す道に忠実であるための忍耐を持続させます。

食べ物に溢れ、教育にも恵まれ、福祉環境も整った特権の中で暮らす人々の中には、しばしば喜びは不在です。その日常の平凡さによって疲弊し消極的になっているかのようです。

ときどき、逆説的ですが、絶望的な人との出会いが喜びをもたらすことがあります。それは一瞬の喜びかもしれませぬ。しかしそれは確かに本当の喜びです。

- 喜びへのあこがれを何回も灯し続ける必要があります。そのあこがれはわたしたちの深いところに根ざしています。人間は、喜ぶために創造されました。憂鬱^{ゆううつ}な気持ちになるためではありません。そして喜びは、自分ひとりのためではなく、分かち合うために、外に向かって放つためにあります。マリアは天使からのお告げを受けた後、いとこのエリサベトに会い共に歌うために出発しました。(ルカ 1:39-56)
- 友のラザロの死に涙したイエスのように (ヨハネ 11:35)、人の苦悩に直面してわたしたちもあえて涙しま

しょう。苦しむ人と共に歩むのです。彼らを神の御手にゆだねること、それは、彼らを分別を欠いた冷たい運命論の悲しみに投げ出すことではありません。それは、彼らを、人間一人ひとりを愛される神の深い憐れみにゆだねることなのです。

- 苦悩する人のそばに留まり、彼らと涙すること、それはわたしたちに勇気を与えます。建設的な抵抗を模索しながら、不正義と戦い、いのちを脅かし破壊するものを拒絶し、袋小路を変容させようとする勇氣です。

提言 4 キリスト者同士、互いの賜物を喜ぼう

○ 神は、秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。こうして、時が満ちるに及んで、天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。(エフェソ 1:9-10)

○ 見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。(詩編 133:1)

神は、キリストをこの世に送られました。それは、宇宙全体、すべての被造物をキリストの御手の内に抱擁するためです。人類を一つの家族とするために神はキリストを送ってくださいました。男と女、子どもと老人、あらゆる背景、言語、文化、さらには敵対する国々の人たちをも一つとするために。

無数の人々が、キリスト者が一致することを望んでいます。その分裂によって、キリストによってもたらされた普遍的な友愛の使信が覆われることのないようにと。わたしたちの兄弟姉妹の一致が人類の一致と平和のある種の徴、前触れとはならないでしょうか。

- キリスト者には多様な背景がありますが、今わたしたちには、共にキリストと一緒に向かう大胆さが求められています。さまざまな神学が完全に一致することを待つのではなく、まず「同じ屋根の下に入る」のです。コプト正教会の修道士はこう語っています。「信仰の核心、それはキリストです。どのような論述もキリストを束縛することはできません。ですから、わたしたちの対話を、まず一致そのものでおられるキリストを迎え入れることから始めねばなりません。一つの信仰という核心を、その中身をどのように表現するかという議論が同意に到達するのを待たずに、共に生きることから始めねばならないのです。信仰の中心、それはキリストご自身、それは愛のうちに、賜物のうちに顕れるのです。」(司祭マッタ エル・マキネ 1919-2006)

- 共にキリストに向かおうとするこの過程は、まず他者に与えられた賜物を感謝することから始まります。宗教改革 500 周年を記念したルンド (スウェーデン) での集会に参加した教皇フランシスコはこう祈りました。「聖霊、宗教改革によって教会にもたらされた贈り物を喜びをもって認めることができますように。」この祈りに励まされて、他者に神がお与えになった価値観……ときにはわたしには欠けている価値観……を認めることに心を開きたいのです。わたしの価値観とは異なる他者のそれを、それが最初は不愉快に思えるものでも、わたしを豊かにするものとして受け入れようとするのでしょうか。他者に与えられた賜物の内に喜びの新鮮さを見出すのです。

信頼の巡礼は続きます (詳細は www.taize.fr)

2018 年のテゼ

毎週 (通年) のプログラム

日曜日から次の日曜日まで、青年たちの集いがテゼで開催されます。信仰の源泉に向かい、社会のもっとも弱い人々の叫びに耳を傾ける道を模索します。

香港大会

2018 年 8 月 8 日 (水) ~ 12 日 (日)

第 7 回目となるテゼのアジア大会。アジア諸国また他の大陸から集う青年たちが信頼の巡礼を模索します。参加者は香港の諸教会に迎え入れられます。